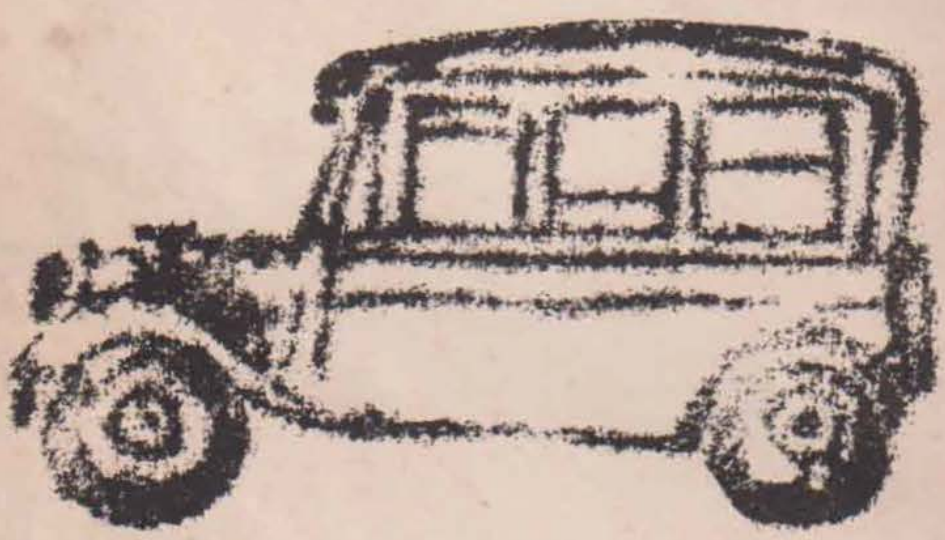
流　星

6 号



九州工業大学 責善会 自動車部

巻頭言

部長　藤原

私が、自動車部々長に就任してから早いもので、もう二年も経過しました。その間の大学内の変貌は、まつたく目を見張らせるものがあります。外観的には、大学の旧い建物は殆どといつてよい程うち壊され、新しい教室が立ち並ぶ間を、舗装された道路が整然と縦横に通じて旧い伝統ある本学が、いよいよ合理化された近代的な大学へと一変しつゝあるのを感じます。また、内面的には全国を、あたかも野火の如くに広まつて衆目を集めた大学紛争に、本学も例外でなく激しい動乱の時期を過して来ました。今、その余燼がかすかに立ちのぼる程度にまで治まつて来たとはいうものの、問題はまだ山積しています。

それら内外の諸事情の中にあつて、自動車部は自動車部なりにその伝統を伝えながら、しかも新しい自動車部への脱皮を試みて来ました。しかし事実は意に反し、新しい息吹きを感じさせるものが生れかかつては消えて行つた感じです。今後は、それによつて得た貴重な体験の数々を生かし部員の一人一人が、部の発展に意を注がねばなるまいと考えています。先輩諸兄も、自動車部の今後のあり方について、ご意見、ご希望を部室までお寄せ下されば幸甚です。

目　次

巻頭言　藤原　1
主将挨拶　川越　5
遠征報告　6
遠征紀行　井上　11
アメリカ便り　井上　16
三年生部員あれこれ　古岡　19
ラリーにおける感度解析　鳥飼　22
すばらしい自動車部　時松　23
運転免許　近藤　24
工大に入学して　刀祢　25
告白　時松　26
OB名簿　28
部員名簿　33
部則　36
OB会会則　41
これからの一年　時松　43
編集後記　44

昭和46年　三月卒業

仙	中	細	檜	佐
謙	野	川	原	藤

山	新	古	鞍	山
本	開	河	馬	本

主将挨拶

主将　川越　[redacted]

我が九州工業大学責善会自動車部も第一回卒業生を送りだして、はや三十年にならんとしております。百名を越える諸先輩方々の残された功績によつて今日の自動車が得られたと考えるとき、我が部の歴史の重さを痛感せざるにはおられません。

昨年の全国の交通事故による死者は一六〇〇〇人を突破し、今年の死者が昨年を下回ることはまずあり得ないと思われますが、これら交通事故を無視せずには活動できない自動車部として今さらながら身の引きしまる思いがいたします。

現在種々の問題をかかえている我が部にとつて、全部員一丸となつて解決に当たり、健全な体育部としてさらに邁進することは、諸先輩方々の為にはもちろん将来の新入部員に対する我々の責任であると存じます。

自動車公害等、社会問題も活動の内にとり入れ、より充実した部活動へとさらに発展させるために粉骨砕身努力する覚悟をいたしております。今後共切に諸先輩方々の暖かい御支援並びに叱咤下さいますようお願い申し上げます。

これからの部活動の礎として「流星」六号の発刊はこれから何年たつても記念すべきものとして残らねばなりません。

ここに今年一年間の部活動のまとめをお知らせいたします。

第十四回九州一周遠征報告

期間　自昭和四十五年三月三十一日
　　至昭和四十五年四月八日

使用車　セドリック（部　車）
　　ベレル（〃）
　　クラウン（福岡トヨタ提供）
　　パブリカ（森田氏提供）

参加隊員

隊長　山本（四）
副隊長　川越（三）
会計　鳥飼（三）
記録　浜田（三）

鞍馬（四）
新開（四）
中野（四）
佐藤（四）
牛島（三）
古本（三）
中津留（三）
時松（二）
長尾（二）
井上（二）
中島（二）
星（二）
山地（二）
大庭（二）
久保（二）

以上十九名

日　程

三月三十一日
九工大出発、十号線で別府まで行き、やまなみハイウエイを通つて阿蘇まで。　二四九Km

四月一日
阿蘇出発、高千穂を通り延岡に出、再び十号線を通り宮崎まで。　二一八Km

四月二日
宮崎出発、日南海岸を経て都井岬、その後二二〇号線を下り鹿児島まで。　二九三Km

四月三日
鹿児島出発、二二六号線を下り、指宿、枕崎を経二七〇号線を上り市来町まで。　二〇四Km

四月四日
市来町出発、三号線を上り熊本まで。一七〇Km

四月五日
熊本出発、植木町から二〇八号線を経て佐賀を通り、二〇七号線に入つて、諫早、島原を経て、雲仙まで。　二四〇Km

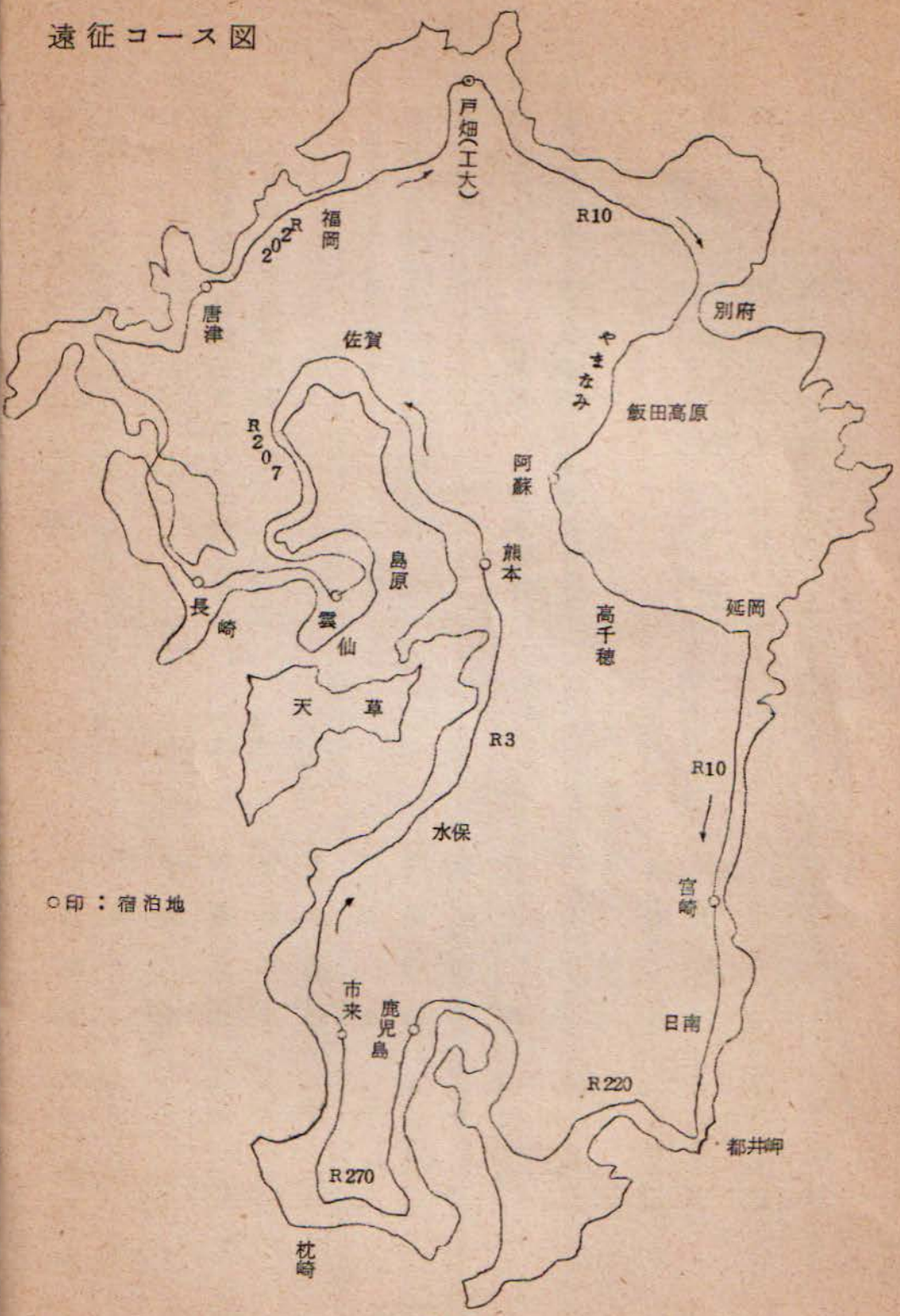
四月六日
雲仙出発、五七号線から諫早まで出て、三四号線に入り長崎まで。　七〇Km

四月七日
長崎出発、二〇六号線から西海橋を通り佐世保市から二〇四、二〇二号線を経て唐津まで。　二一五Km

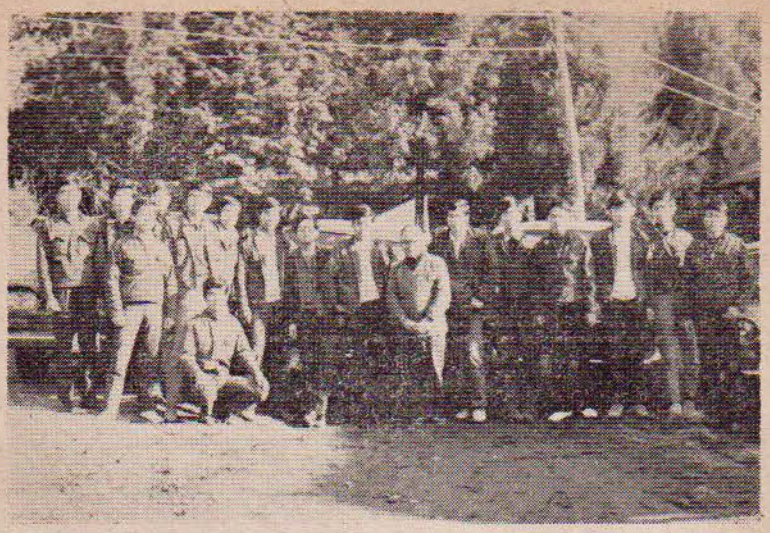
四月八日
唐津出発、二〇二号線で福岡市を経て、二〇一号線に入り、飯塚から二〇〇号線を経て、戸畑九工大まで。　一五〇Km

全走行距離　一八〇五Km

遠征コース図


戸畑(工大)
R10
福岡
R202
唐津
別府
佐賀
やまなみ
飯田高原
R207
阿蘇
熊本
島原
長崎
雲仙
高千穂
延岡
天草
R3
R10
水保
宮崎
市来
鹿児島
日南
R220
都井岬
R270
枕崎

○印：宿泊地



(熊本ＹＭＣＡ阿蘇キャンプにて)

（宿に着いてはしやぐ部員）

九州一周遠征の思い出

二井上

三月三十一日

三十日の夜、大庭君と一緒に小倉の友人宅に宿泊。暮に催したスキヤキ・パーティの残りのビールを飲んで寝たら、寝過して、集合に十分遅れ、叱られるという始末。おまけに、点検中、ベレルのウインカーがイカレ、ランプを買いに行く。何とも締まらない。正門前に整列して記念撮影をやり、それからやつと出発。三萩野から国十に出る。ドライブイン富士で一回目のDC。別府までは単調なコースで何度も通つた事があるので見慣れた所ばかり。天気も最高。左前方に別府湾を望む。右前方に山並が霞んで見える。とにかく春を思う。市内に入つたのはもう昼だつた。ドライブインで昼食。高いが、味はまあまあ。その時TVで「日航機・乗取り事件」の大ニュースを耳にする。（その後、どこでもこのニュースで持ちきりだつたと思う。）近くのGSで給油して「山並」に入る。ここから、運転だ。カーブが多い。誰かが「スケスケルックの女がおる！」と絶叫。一斉に外に目。しかし、しかし、我関せずである。（ドライバーだもの。しかし、チラツと横目で見たのは罪なのか）前を走る連中も、デレ！としてこちらを見ている。「おい、見たか」という顔まだ、まだカーブは続く。このベレルはカーブを回ると定つて「キユー、キユー」と空恐しい悲鳴。それに前輪は丸坊主。とても使えた物じやないのに。恐い恐い。やつと料金所に着く。ここで一休み。向うの草群で立ち？をやつているのは。ここでも佐藤さんによる記念撮影。一同、ポーズ。（おかしくつて）山を下り出す。連絡の中矢を二人連れの男がさすらつている。危い。前から大型トラック。避けられないや。「早くブレーキ」の声。若干遅かつた。乗つてた方の男の尻をフエンダーが擦つて止まる。こつちを見て何やら言う。降りて謝まる。もう一人の男が「気を付けなきや。もう少し、スピードが出ていたら。気を付けなさいよ。」ごめんなさい、皆さん。とにかく大事に至らず良かつた。その後すぐDC。中野さんが運転。長者原という所を少し過ぎて、又又事故。ついに例のタイヤがバースト。停車して後続のクラウンに合図。ところが、これに気付かず通り過ぎる。とにかく交換。この時、指に負傷。悪い事は続くものだ。さて、いくら行つても一行の車が見えない。けしからんではないか。三キロ程先で待つていた。合流して町へ入る。ここはもう阿蘇だつた。まず草千里へ向う。ひどい登り坂で、おまけにカーブときてる。パブリカの大奮闘振りを見せたい。しばらく登ると、すばらしい眺望。とにかく、高い所から低い所を見るのはいい気持だ。観光バスもずらりと並んでいる。京都の女子高の修学旅行らしい。しかし、まあ、なんと、草千里は女ばかり。誰かさんが、丘の上の茶を期待して駆け登る。他の連中まで。（不道徳この上ない。遺憾。）しばらく休息、ホツとする。さてYHへ向うべく山を降りる事になつたはいいが、このベレル、バスを追越したら、急にエンジントラブル。アクセルが用をなさない。チョークで何とか代用。中野さん曰く「手動アクセルだ。苦笑）」ああ、情ない。原因は加速ポンプらしい。結局キャブを買つて来て交換。これも古物でいつまで持つか問題。途中、同じYHに向う女子大生一行と出会う。荷物を積んでやる者も出る。山小屋風のYHは気にいつた。ところで、変な事

もあるものだ。女風呂があいたとの由、男女両方とも我々に提供される。女性用を借用のはめになる。（別に変つた所ではなかつたのだが）出ようと思いきや、戸の裏より、正しく女性の声。「誰か入つてますか」「はいつてますよ」と答えざるを得ず。「そこは女風呂では」「そうですよ」こう返事をするも我ながら非常に不可解。この声の主、後から遅れて着いたとか。尚、先の連中は名古屋の学生とミーティングで判明。とても面白い人達でした。このミーティングはコタツの中で行なわれました。ああ、阿蘇の夜つて寒いだろうなあ。早く寝る。

四月一日

六時半起床。ます、コンタクトレンズを入れる。（これが割とめんどうで）例の女の子等と朝の挨拶。空気がうまい。大変、シーツが足りなくて鳥飼さん、大あわて。誰れ。やつぱり中島君が出し忘れてた。この後でやつと飯にありつく。自分は、いたつて少食の故か満腹の感。皆さんの不満な顔が面白い。全員、記念撮影だ。YHの方々、お達者で。今日はセドリックに乗れる。しかし、GS調査はいやだ。高森公園て所がまたひどい道。猛烈。砂利道、山路、極悪路ときた。九十九曲なんてものもある。もう数え始める人もいます。要するに暇人といおうか。中腹に至ると、向うに霞むは阿蘇連山。少々紫がかつた水彩画。いいなあ。下界の景色も憎いです。もう峠の頂上。あらら、チーフとした事、シフトミス。（そこはバツクギヤですよ）向こうから宮崎交通のバス。もう宮崎に入り込んだのか。山中を走りまくつたら高千穂だ。一応、GSで結油。時間があるから高千穂峡見物も可。ここも修学旅行。壮大な背景を入れて、スナツプ。ここの昼飯は高くつくので町へ出る。バスステーションの横に駐車。突然、変なおつさんが場所を横取り。ムカムカして昼飯を食べる。まだ「乗取り」のニュース。満腹した所でセドリックのオイル洩れを発見。一応、先のGSで調べる。何と、オイルクリーナーに二枚もパッキンが入れてある。一同、赤面。出発前日、エレメントを交換したのは確か彼だつたが？。

ここでバブリカに移る。大変調子がいい。後続車が若干遅れ気味。右手に大きな川が見えて来た。この辺は非常にのどかだ。道も単調でわりと楽。川越さんが後のベレルと下らない事で交信。唄も歌う。もうR十に出る。もうすぐ延岡。市内は自転車が多い。「わあ！すげえ！カワイイ！」若干下品と思われる声を洩らさずにおれない子がサイクルに乗つて迫つて来る。ここはステキな所ですね、キャプテン。（余計な事だが、キャプテンは宮崎の出である。）ここで又、セドに戻される。何だかタライ回し。この先宮崎市まで大変道路がいい。市内に入ると、まず市庁舎前広場に集合。一息して、予定のYHを探す。何度も道を違えて、別館とやらに落ち着く。ここでも阿蘇の女と一緒になる。八時半までは自由時間。何だか修学旅行みたいだ。大庭、長尾の両君等と夜の巷を散歩。今夜はネオンの光も格別。お茶を飲み、買物をして戻るとジャスト八時半。星君等遅れて明日は運転禁止というキツイ沙汰。しかしですよ、彼、我々の為に土産まで持参。それにしては若干可愛想。例によつて、部屋で、例の人達とトランプ遊び。楽しいです。

四月二日

雨です。車体に書いた文字が流れてしまつた。カッコ悪いが仕方ない。YHの二階からサヨウナラの声。まず、R二二〇を日南へとゝる。市内を出て、セドよりクラに移る。左手に写真でよく見るあの海岸線。小雨の日南海岸も重々しい何かしら深い趣があるものだひ

たすらに走る。鹿児島県に入つても同様な景色。若干うんざり。そんな時丁度ラジ。これより、ぬかるみの悪路。先導車がミスコース。引き返して都井岬へ。今度は山路。河鹿を思い出させる。眼下にぼんやりと海。何だかよく分らない。登り切つた所がもう都井岬。燈台もある。この雨さえなければ最高の眺めであろうが。仕方なくすぐ戻る。下りに可愛子ちゃん二人。さあ、手を振ろう。やあ、ニッコリ笑つた。一瞬、気分爽快。折れて串間市。入江がある。早いペース。志布志から串良町に抜け、鹿屋市に入る。きれいな橋が見える頃雨も止む。ラジオはどこも高校野球で、音楽番組はない。垂水を過ぎると、桜島入口。ここで又、ミスコース。とにかくR二二〇を鹿児島へ向う。左手は海。その向う上方に霧に咽ぶ桜島が。微かな噴煙も雲の様。市電が走つている以外は、何となく宮崎市の感じ。旅館を探さなけりゃ。突然、セドを見失う。おかげで立往生。バブリカ組の迎えでやつと旅館に到着の有様。今日は本当にミスが多かつた。ところで、話は変るが、この旅館、風呂が隣りの銭湯と通じている。多角経営というのだろうか。共有とはなかなかのアイデア。すぐ隣の部屋にまたまた女二人。どういう訳か縁がある。二人は共に福岡市。一人はS大生。他はK大医学部とか。このK大生はちょつと可愛子です。外出より早目に戻つた我等四人。即ち、大庭、長尾の両君に佐藤さんと共に彼女らを招待。遊んでた所に連中が戻る。そこで、K大の姐ちゃんと私、井上君に加えて、時松君、牛島、中野鞍馬の三氏らをメンバーに七並べをやる。勝てば重ねた手を叩けるというわけ。彼女の手に触れた時の鞍馬さん、中野さんの顔の破廉恥な事。叩かれつ放しの彼女、今夜は手の痛みもひとしお、とにかく眠れないだろう。比べて、叩きつ放しの罪深き男は。ああ、今夜も安らかに眠れるため。

四月三日

昨日の雨が夢みたいなすばらしい晴天。桜島もはつきり。さあ出発。旅館の朝刊を持ち出した奴がいた。そんな事はイケない事なのだ。GSに立寄つて給油、並びに洗車。そこで、いよいよ、カフクイイ落書の仕上。空は実に青い。鹿児島では雨が降ると翌日はカラリと晴れるとか。まずは指宿に。この辺は道路脇にフエニックスやソテツを植えている。いかにも南国。それに健康的な女性が多いのも気候のせいか。とにかく暖かくて、汗がにじむ。指宿市も、もう目前。後続のタクシーは新婚らしい。「おー、後を見てみい」「あつ！」の声。こちらの視線を感知してか、花嫁が照れる。（鞍馬さんのイジワル！）快調に走つて、山川港。港の入江に変な電柱のような岩が立つている。すぐスケッチ。鳥飼氏の説によると「シンボル岩と違うか」（全員興ざめ）きれいな菜の花と麦の穂の上にスラットした開聞岳を見る。非常にすばらしい。別名、薩摩富士の名がある。道路事情も良く、ドライブコースには最適かと思われる。枕崎からR二七〇を加世田に向う。途中昼食。もう市来も近い。今日はここの国民宿舎に泊る予定だ。セドのブレーキが故障。ドラムがはずれないので手が付けられない。その上、ベレルとバブリカは素通り。とにかく困つた。かなり時間のロス。連中が引返して来るとGSに運ぶ。待つている事はないからとの由、バブとセドを残し、一行は先に出発。市来町に入つてから、目前の国民宿舎を小学生に尋ねる。（赤面）ここは、松林と入江が何ともいえないほどいい。我々の部屋は宴会場の大広間で、ステージ、黒板、マイク、ブレーヤー付。少々古いが、ピンキラの「恋の季節」てのもある。テラス

に出て、夕映えの景色をバックの記念撮影。白黒フイルムとはもつたいない。カメラは山地君。自分は例の如く大庭君の隣に並ぶ。

（別に深い意味はない）その内、残留隊が帰還。食事の後、一見アルバイト風のちよつぴり可愛いい子が布団を敷に来る。その時、牛島先生の、力学的解説入り、ドライブテクニックに関する講義も始まる。大変、勉強になる。はたまた、古本氏のダンスショー。（どこで覚えたか、余り感じのいいものではない。若干頭痛をもよおす）今夜は尋ねる人もなく、久々に静かだ。

四月四日

早朝、山本、新開の両氏到着。おかげ様で、人員増による影響が多少あり。さわやかな気分で、バブを走らす。一まず串木野に出てR三を進行。川内市から阿玖根、そしてかの有名な水俣市。左手に海岸を。そんな時、ベレルに移される。ここで、アイスクリームをかじりつつ走る。松崎町から宇土市に入る頃には、空も少々曇り気味。ここでR五七へ入り、有明海を右手に、そしてはるかなる遠浅の海をしかと見とどける。長尾君にDC。直後、突然、右前輪がバースト。ゴムがなくなつて、布が出ている程重傷。ヤバイ所で止つた。相当に車が多い。物珍らし気に首を出しては通り過ぎて行くことしきり。三角町に入つて、ドライブインで昼食。コーラを流込んで出発。右斜め前方に見えるは天草五橋の一つか?。協議の上一号橋と判断。料金所の前でUターン。これも経費節約の為とか。（一同、非常に不満。若干あせる。）宇土まで戻る。ここでも又、バブ組がミスコース。R三を熊本市まで直進。いよいよ空模様が怪しくなる。雨は降らぬようだ。その内、市内突入、YHは駅の近く。若干早く到着し過ぎた。ともかく暇なので風呂に入る。そこに変な外人が入り込む。言つたことばが「ドウモ、アリガトウ」。とにかく変だ。またです。隣の部屋は例によつて女の子。それも、かなりの数らしい。その事は後にして、夜の熊本でも見物と、ぞろぞろと繰り出す。例の外人と出会う。別に当てもないので、熊本城へと散歩。夜桜の下に花見の席。かなり騒いでます。おまけにアベックが多い。面白くない。すぐ帰還。例によつて、隣室に声をかける。またまた、トランプ会。今度は大阪の子二人。先輩の部屋も別口らしい。「恋占いをやつてあげる」というから、やらせる。（紙面節約の為、以下割愛。各自、自由に想像されたし。）

四月五日

晴天。我々の車の前にクラウンのハードトップを置いてある。若干の見劣り。ところで日曜日の朝のせいか、市内の車は少ない。GSはどこも閉つている。R二〇八に入つた。田原坂まで来ると、手頃なGSが開いていた。各車、ガスを補給。これで安心して走れるというもの。玉名市、荒尾、大牟田と快調。ついに柳川。有名な川も余りめだたぬ。大川市に入つて直後、前方から来たバスを避けそこねて、横の電柱に接触という醜態。失敗。御一同、すみません。深く反省。佐賀市に入り、ここよりR二〇七。昨日とは海を隔てて向い側の有明町から鹿島市と進む。この辺まで来ると少々閑かな風景が目に入る。諫早市でミスコース。若干ミスが多過ぎる。（ナビがだらしがないのだ。）予定とは違つてR五七を愛野町へ向い出した。その時、ラリーの競技車・CP八もある。今日は絶好のラリー日和。愛野町展望台からの景色は抜群。眼下の車が小さく見えます。ユニホームを着た我々部員は見物人の注目の的?。記念撮影が済んだら、登り下りの多い道を小浜町へ。ここは有名な温泉地で海上に

噴き上げるのが見える。すぐ登り坂に入り、霧位も目前。阿蘇と全く同様で、カーブが多い。コバルトブルー！！の空の下の眺めもまずまず。新宮に言えば、直上間近かの雲仙国立公園の様式のすぐ下のカーブでバブのエンジンがイカレる。おまけにブレーキパイプも破れた。通行く車が多い。川越さんら我々。一応、残りはYHへ直行の事。又又、ここでも探すのにモメつく。入口で熊本のYHで会つた外人さんとバブメ。声をかけると、「OH！」の返答。玄関に「〇〇外人、空手部」の看れ書。一瞬、ゾッとする。部屋は四階。山の中なので外出する所もない。風呂は温泉らしい。男女湯の区切の壁にパイプ通しの穴があつた。例によつて好きな〇〇さんが覗いて見る。向こうに洗面器が置いてあつたとか。（残念です）食事は大食堂。とても広い。女子大生もかなり。賑やかな夕食でした。部屋でミーティング。翌朝、バブを長崎まで牽引すること、及び別動隊は市内見物と決定。その時、眠つていた大庭君がベットから落下。（大笑）今夜は客人は呼ばず、安らかに寝る。

四月六日

セドを押しかけ。快調、一発でOK。バブは牛島、山本の両氏の運転で坂を下る。その速い事。料金所前でセドに接続。諫早市を採し回つて、ブレーキホースを入手。途中、ベレとクラ組と合流して長崎バイパスまで来る。入口で若いお廻りさんに止められ、「牽引する場合は、どうしたらいいんですか。」「あつ、あのう、白い布を下げます。」といつた調子なのである。とにかく白いのを付けた。窓に故障時用の赤旗を出したら、ほめられた?。市内ですぐバブを工場に運ぶ。結局エンジンを積み換える事となる。そこで、牛島さんの案内にて徒歩にてオランダ坂YHに行くはめとなる。駅前で皿うドンを食べる。非常に量が多いのに驚く。味もいい。ところで、川越さんの注文がなかなか来ない。その後者が続出。いい所ばかり回う。古本さんの忘れたメガネを美人のお姉ちゃんがYHにとどけてニコリ。YHに着くと、他の連中は一人もいない。一応、すぐ近くのグラバー邸を見物。海を見降ろす高台にあつて、彼方に三菱重工長崎造船所の巨大なドックも一望。先のYHの少し上に〇〇女子短大がある。この展望台の望遠鏡で、そのアニスコートが手に取ようだ。スバラシイ。（おかげ様で、四回分、四十円使いました。）それから、我々図々しくも牛島氏の自宅にお呼ばれ。大変親切にしていただく。その後で、めがね橋、一本足の鳥井と見物。めがね橋は水が引いていて、めがねの形は見られず。平和公園に回つて原爆資料などを見学。ここも桜が満開で花見客が大変。正に平和。五時少し過ぎにYHに戻ると全員食事の用意をしている。小さな所で超満員だ。驚いた事に、阿蘇、宮崎のYHで一緒だつた女の子達に再会。なつかしい。暇つぶしに買物に出たが、時間も少ないので早めに戻る。山本氏が何やら沢山買つてました。話しは変つて、男風呂のボイラーの故障で今夜は入れない。我々の部屋の前を通つて突き当りが浴場なので、女の子だけが通る。おまけに、何やら声まで聞える。不快なので、顔でも見てやろうと、ドアを開いたら、ドアの陰から、「お願い、閉めてえ」と変な声。親切な小生としては他氏の不本意は承知ながら閉める。顔を赤らめて軽く礼をするその姿、意地らしいではないか。ねえ。電燈を消して、今日の無事を神に祈る。（これは鞍馬氏の口ぐせである）港の明りが目にしみる。ああ眠い。

四月七日

久し振りの雨。バブと残留組を残して先に出発。R二〇六だ。途中ベレルを見失う。我二号車（セド）は勝手に走つて、後続のクラの連中に攻撃さる。一同反省。かなりの後、全車無事合流。やや、西海橋。雨で視界が悪いが、小さな渦が沢山見れる。話しはよく変るが、最近、通行料が只になつたという、R三五より佐世保市内に入る。米軍放送がよく入る。佐々町から吉井町とR二〇四を行く。ドライブインで昼食。ラーメンとは。平戸口から松浦市、伊万里と黙々と走る。前車の鳥飼氏「安全運転で、ゆつくり行く」とか洩していたが、案外飛ばしている。やつと唐津に着く。本日の日程は少々短い。虹の松原国民宿舎にたどりつくと、近くのGSで洗車。絵具の文字が消えなくて一苦労。宿舎に戻り、落書きを始める。今回は全員の名前も入れる。浴室は二階で、海岸の砂浜がよく見える。窓から裸でX氏、浜を歩く二人の女性に声をかける。振り向いてびつくり。遠回りして帰るという始末。（このX氏とは誰なのか？）長尾、大庭、久保君らと同室になる。皆でお茶を飲み、くつろいでいる時、バブが到着。調子は上々で、エンジン代は一万九千円とか。全員そろつて夕食。これで一安心。だが、今度は、飯が不足。もう早い者勝ち。生存競争をまのあたりに見るの感。敗者たる者、追加をたのまざるを得ず。レミゼラブル。その夜、大先輩の熊本さんが土産を持つて現われる。我々一同、大いに感激して、ビールで乾杯（全員、この日だけ禁酒を解かれたのです）楽しい話に花が咲く。時松君、大いに飲んで有望視さる。先輩を囲んでの記念撮影。そして一同玄関まで見送る。今回の日程も終盤を迎え、反省会をやる。色々な意見、不満など続出して白熱。我々の部屋に誰かれとなく集つて来る。困りますなあ。

四月八日

いよいよ最終日。虹の松原を抜けて、R二〇二を福岡市に直行。防塁のある当りが有名で、ラメール海岸と言うとか。市内に入り、西公園近くのモービルで給油。しばし休息して、東中洲から千代町に回つてR二〇一に入る。これより飯塚へ回つて北九州へと戻る予定。八木山峠にかかると、かなりのカーブ。景色もまずまず。桜も満開。後から白バイがぴつたり。いやだ、いやだ。峠を下ると飯塚、田川で新開さんの家へ立寄り、行橋からR十に入る。この辺からもう工大も目前という感じ。空は少々曇り気味。三萩野へ出て、そのままで小倉駅前へパレード。これも例年の慣習と言うこと。駅から市民会館へ出て一同、無事帰環の記念撮影をすませ、工大正門へ到着。歓迎は無かつたが、九州一周を成功させた喜びで胸が一杯。

アメリカ便り

四十四年卒　井上

前略

皆様お変りありませんか。日本では大変お世話になりました。

四月二十六日夕方無事シスコに上陸しました。シスコの街へレンタカーを借りに出ましたが日曜日の夜ということで出払つており、しかたなくホテルに泊りました。日曜日の昼三時半頃トラックを借

乗てシスコを出発しました。ロスまで行くという者が三人いましたからやつら三人をつれて行きました。レンタカーを借りるのに英語が話せないので絵をかいたり手まねでやつたりして目的の車を示すのに二十分くらいかかりましたがメチヤクチヤな英語と手まねである程度通じるものだということがわかりました。ロスには夜一時に着きましたが途中一回だけ（本当）道に迷いました。

ロスはとても暑い所です。日の当つている所では半袖ではとてもやりきれません。ところが日陰に入ると長袖のワイシャツで丁度よいくらいです。しかし夜になると毛糸のセーターが必要です。一年中こんな調子だそうです。またとても乾燥していてのどが乾いて困ります。十二月頃までは全く雨が降らないそうです。乾いていますから温度の割には暑さは感じません。クーラーを付けている車など見たことがありません。船が外国船だつたため英語に対して無視できるようになつていましたから街中どこえ行つても右を見ても左を見ても英語ばかりなのに別に気にはなりません。一番とまどつたのは右側通行です。道を横切る時つい先に右を見てしまいますが、まず左を見なければなりません。僕は今、昼は親父の手伝いをしながら夜英語学校に行つております。不思議なことに入学金二十五仙（セント）つまり九十円で月謝は不要です。その上テキスト、ノート、エンピツ等は全部無料です。

知人からアルバイトで手取二六〇ドル（月額）、土、日は休みの、一日七・五時間労働（カマボコ屋でカマボコを作る）というのが紹介されました。九万三千円くらいですから行こうと思つていましたら、となりの人が安すぎるからだめだというのでやめました。こちらでの今の生活費は宿泊、食費、光熱費共で週二〇ドルです。もちろん湯と水が出て家具付です。手ごろなバイトがあれば一ヶ月でこの様な安いのでも二ヶ月で車が買えます。車も程度の良い中古車がごろごろしております。二～三〇〇ドルくらいです。今まで見た一番安いのはたつた五〇ドルでした。ちやんと動いていました。

米国というのは不思議な国です。まず街路が実にきれいです。タバコのすいがら、ゴミ等が全く落ちておりません。くつも全くみがく必要がありません。ガソリンも店により日により全て値段が異つております。車が実に多いのですが交差点等で左折（米国は右側通行）する車がいてその後に直進車が続いていて、右側のレーンがあいていてもレーンを変えるようなことはせずじつと待つておりますし、信号が赤から緑に変つたときぼんやりしていても別に後の車からホーンはなりませんし、そのまま赤に変つてもまだそのまま待つていてホーンをならしたり、割り込んで来たりということはありません。実に大陸的なゆつたりした国です。またハイウエイ、フリーウエイ、パークウエイ等でも有料の所はほとんどありません。カルフオルニアでは金門橋くらいのものです。

困まるのはまず買物です。値だんは税金が入つていないものが付けてありますから正札に五％加えて払わねばなりません。州によつて税金が異なるためだそうです。水道の水もあまりうまくありません。飲料用の水は別にトラックでビンづめのものを売りに来ます。ふろもかんおけのようなやつですから入つたような気がしません。物の単位は時間が同じくらいのもので長さ、重さ、体積、温度等全部ちがいます。その上十進法でなくてさらに重さの同じ単位でも測るものによつてその重さが異なるというやつかいな単位です。またお金も紙幣の方は一、五、一〇、二〇、五〇、一〇〇、五〇〇、

一〇〇〇ドルとありますが、大きさと色が同じですから良く見て出さないとまちがいますし、コインの方も一、五、一〇、二五、五〇セントとありますが、一セントが銅色で他は銀色です。大きさも一〇セントが少し小さめですが他はほとんど同じでその上に数字の代りにお金のふちにそつて、FIVE CENT QUARTER DOLLAR HALF DOLLER　等と小さく小さく書いてありますからとても読めたものではありません。バス賃の高いのにはおどろきます。三〇セントです。しかし一度のればどこまで行つても同じです。

こちらは四月の終りからサマータイムになりました。つまり時計を一時間進ませるわけです。だから夜八時頃まで明るくてつい夜ふかしをしてしまいます。では皆様お体に気をつけて下さい。

さようなら

五月七日　　井上

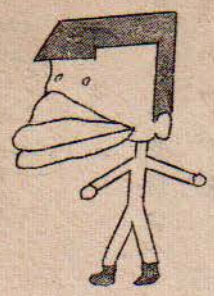
（編者注）

この手紙は、井上氏が在学中に下宿しておられた石井家に寄せられた手紙を、石井家の御好意により、転載したものです。なお井上氏の住所は左記のとおりです。

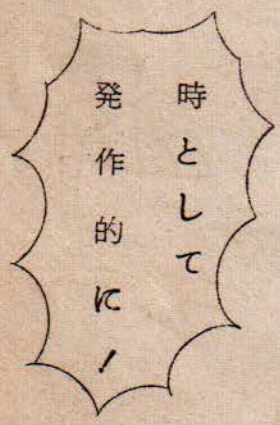
四十六年度　新役員

主将　時松（二）
副将　大庭（二）
　　泡田（二）
会計　長尾（二）
書記　刀祢（一）
整備　井上（二）
練習　新郷（二）
　　小泉（二）
　　久保（二）
OB会　山地（二）
部誌　星（二）
自連　時松（二）
委員　中島（二）
　　泡田（二）

川越の巻



1

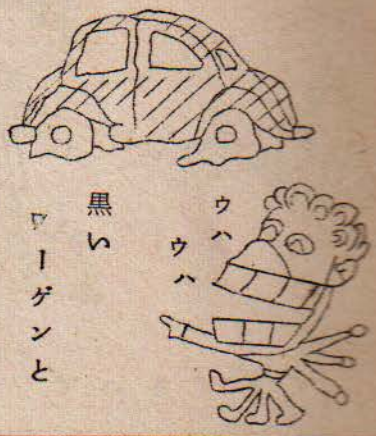


2

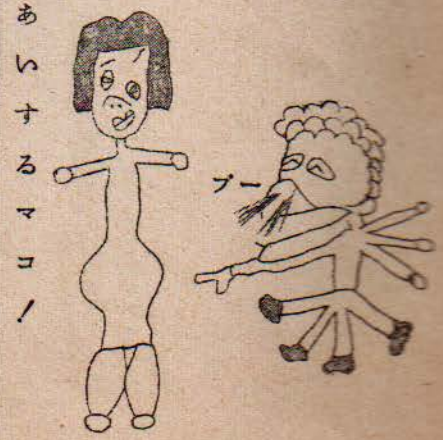
3

村上の巻

1

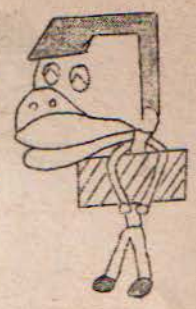


2



3

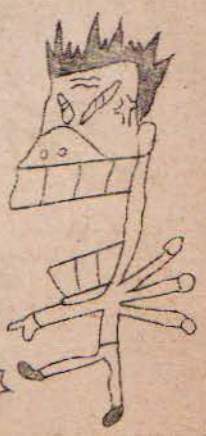
森田の巻



ニコニコ
いつもしっかり持つて
いる黒いカバン
勉強家だと思いきや

1

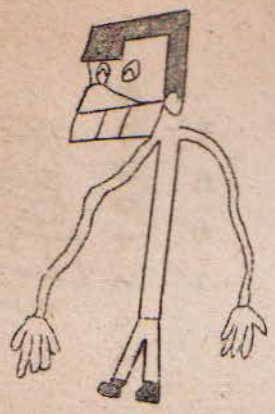
2



早く部費を
はらわんかい
ワンラー〜〜
オラオラ

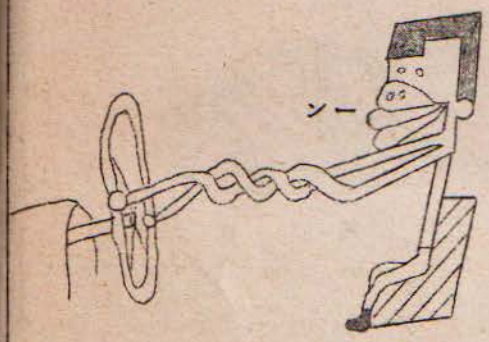
3

鳥飼の巻



この手でどうやつて
ハンドルを回すのか

1



てなぐあいで

2

学業バッ
グンのせい
もあつてか
もつぱらカリのうで
を上げている

3

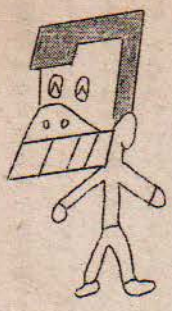
浜田の巻

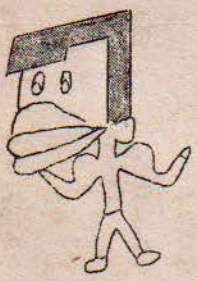
いつも髪をナデナデ
してみだすことがない
女の子に見せるのか
と思えば
1

フンなんだ女か
2

ところが
男を見ると
あいつ
かーわいー〜
3

古本の巻


世の中にこれほどの
美男子がいようか
いやいやしない
1


気はやさしくて
力もち
女の子がほっておく
わけないもんね
2

キャー
ウハウハ
キャー
つらいなーー〜
3

ラリーにおける感度解析

(三) 鳥 飼

現在、九工大自動車部において使用されているラリーの計算法は、ある地点における遅れ、進みを計算するものであり、合理的であると思う。しかし、距離は10m単位でとれば良いのか、5m単位あるいは1m単位なのか、はつきりしていないし、又補正率の計算も、何ケタまでとれば良いのかはつきりせずいたづらにケタ数を多くするのは誤りのもとである。よつて、ここでこれらの誤差が走行時間に及す影響について解明したいと思う。

officialの指示速度 V Km/h

距　離 L Km

とすると公式の所用時間Tは

$T=\frac{L}{V}$〔h〕である　これを分になおすと

$T〔min〕=\frac{60L}{V}$

自分の距離をL'とすると

$L'=\varphi L$　として　補正率　が計算できる。

よつて自分の距離による所用時間は

$T〔min〕=\frac{60L'}{V\varphi}$　という形で与えられる。

今L'を100m単位で測定すると

$L'〔Km〕=\frac{1}{10}L'〔100m〕$

$T=\frac{6L'}{V}$　とこで改めて $L'=L$ とおくと

$T〔min〕=\frac{6L}{V\varphi}$　　V：〔Km/h〕

L：〔100m〕

ここでTに影響を与えるものはLとφである。通常$\frac{6}{V}$は0.1～0.5程度の値でありφは0.8～1.2程度の値である。

Lはバスコン間の距離であるが、短い場合は0.5Km程度、長い場合には20Km以上に及ぶ場合もある。

Lの測定時における読取り誤差は10mまで出るトリツプメータであるならば、たかだか5mである。（ナビゲータが居眠りしていれば別であるが）

Tは　$T=\frac{6}{V\varphi}(L\pm 0.05)$

$\frac{6}{V\varphi}$が大、すなわちVが小の時はそれだけ正確にLを読取れるはずであるのでTの誤差はたかだか0.025min

すなわち1.5秒である。

実際にはこの誤差は、さらに小さく±1秒以内である。さらにこの誤差はtotalされる事によつて打消し合うので実用上、無視しうる。よつてLの測定は四拾五入によつて10m単位で測定すれば十分である。

次にφの精度について考察する。

今 $\frac{1}{\varphi}=1+a$　$-0.2\leq a\leq 0.2$程度とし

今△の誤差があるとすると

$\frac{1}{\varphi}=1+a\pm\triangle$

よつて$\frac{1}{\varphi}$の誤差はたかだか△である。

この△が　L＝20Kmの場合でもTに5秒以内の誤差しか与えない為には

$\frac{5}{60}\geq\triangle\times 200$　　$\therefore\ \triangle\leq\frac{5}{12000}$

$\triangle\leq 0.0004$

よつて△は四捨五入によつて小数第四位までとれば十分でありその時は２０Kmで約1.2秒の誤差である。

同様に $\frac{6}{V_S}$ の計算も小数第四位までで十分である。

しかし、実際上 $\frac{1}{S}$ の精度はO,M,C,P,までの距離測定の精度が問題となつてくる。

今、O,M,C,P,までの距離を２０Kmとすると読取り誤差5 mの与える影響は

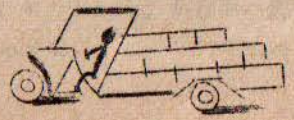
$$\frac{5}{20000}=\frac{5}{2}\times 10^{-4}$$

すなわち、O,M,C,P,までの距離測定を正確にしなければ前記の議論は全く無意味になる。

諸兄、O,M,C,P,までとばしすぎてのスリップ、急ブレーキ、御用心、

この他に、タイヤのラジアル、ノンラジアルの場合の修正、天候による修正、道路情況による修正、など色々考えられるが、浅学の至り、そこまで考察が及ばない次第、

読者諸氏の中にこれらに関するデータをお持ちの方がおられたら自動車部まで御教授下されば幸いです。



すばらしい自動車部

[redacted]川　時松[redacted]

先日、某大学自動車部の部員より、彼の所属する自動車部の自慢話を聞いた。

曰く、某大学○X会自動車部。今やこの名は全国に響き渡り、大学生で知らぬ者はないとしても過言ではないとのこと。

全部員の顔は自信に満ちあふれていて、その目は実に生き生きと輝いている。

ラリー、ライギア、整備大会の三部門に平均した強みを発揮して今年総合力で全日本大学自動車連盟加盟大学中ずば抜けた強さを誇つていることからすればむしろ当然の状態かも知れないが。

しかし、全国一の偉業を成し遂げた部員たちの毎日の活動はさすがである。

朝七時半、まだ薄暗いというのに車庫の中には三年、四年合わせて全員の顔がそろつている。まず主将、整備係より本日の計画を聞きすぐ班に別れて行動に移る。

朝のうちにやるべきことは仕業点検のみ、冷却水、オイル、バッテリ液は勿論、タイヤの空気圧や亀裂の有無、クラッチ、ブレーキ、アクセルの点検、ウインカー、ライト、ワイパー等の作動具合、最後にエンジンを始動させて異音、排気の色、振動の異状、さらに各部の損傷の有無、汚れに到るまで全て車ごとに点検記録簿をつける。

ついでに暇な者たちで洗車、ワックスがけもやる。さすがに念入

りに行なうだけあつて六四年のモドリックやクラウンのどこにもサビ一つないそうである。

毎日の点検によつて異状が発見されれば、たゞちに該当車は運転禁止にされ、部員たちが徹夜で作つたピットへ。さつそく講義のない者が率先してこれまた洗い立ての整備服で修理を開始する。だからよほど重傷でもないかぎり修理は一日で終り、従つて部車は全て何日も動けないなどということはほとんどない。

夕方授業が終つて四時十五分になると車庫には、朝の顔ぶれが全員そろつている。主将の指示に従つて、ラリー、フイギア、整備の三グループに別れ、ただちに練習に入る。みつちりと六時まで汗をかくと終了、車庫にまた集まつて洗車をし、一日の反省会に移る。いくつかの反省点が見い出された後に、全体あるいは班別に討論をする。この場に限つては上級生、下級生の区別は全くない。全ての部員が対等な立場でお互いに感じ合つたことを発表し、討論し、納得のいく解決策を見い出すことが出来る。

こういつた部活動であるから、お互いの信頼は確固たるまでになり、先輩、後輩の絆は恋人同志のそれにも増して断ち難い。

たとえばある部員が一つの計画を思いついたとする。そうすると上級生までが直ちにそのグループに加わり一丸となつて計画の遂行に全力を投入する。好ましい結果が得られなくても決して落担したりはしない。十分な反省が行なわれ、又、新しい課題にとりくむべく努力を惜しまないのである。

何とすばらしい自動車部ではないか。後になつてぜひとも見学してみたいものだと彼の消息を調べてみたがどうもはつきりとはわからない。ただ彼の知人らしい人から聞いたところによると、彼は九州のある工業大学に在学中ではないか、とのことであつた。

運転免許

[redacted]一）近藤[redacted]

僕の両親は僕が免許を取るのに反対していて、軍資金が出なかつた（父は自動車学校へ行くのなら金を出すと言つていた。つまり、自動車部での運転練習では道路を運転する上での基本が出来てなく自己流デアルということ。）だから、夏休み中（七月二五日～八月十一日）バイトをして金を作つた。

さて、試験場ですけど、僕は宗像町に居りますので、福岡の花畑試験場で受けました。

そこは福岡市の外れで、天神から三十分位かかり、又自宅から天神まで普通バスで一時間半かかるので試験を受けるのは一日仕事です。試験場までエッチラオッチラ行き着いて、ほんの十五分の実技試験で不合格となるのだから割りに合わた話ではない、第一回目の試験の時には僕は練習場で六時間程乗つていました。そして一回目六十点でマズマズ、張り切つて練習して二回目が六十五点、次はイタダキダと思つたところがなんとこの日はドジばかり「帰りましょう」と言われてあえなくチョン、このころにはもう我が家の雲行きは思わしくなく、次第に居づらくなつていた、前にも言つたように両親はあまり好意的でなく、その上一日仕事の試験場参り＆練習場参りでこと数日、家は飯を食い寝るだけの場となつていたからだ。

第三回目に落ちた時にはもう金はとつくになく、母からもらつた金もあと一回受けられる程しかなく、絶対絶命の大ピンチに立たされていた。今度の試験に落ちるともう、春まで試験は受けられなかつた。このような状態で再度挑戦したのが九月四日、うれしかつたねえ、何点だつたと思う、〃七十五点〃「生年月日は？」と言われて「一九七〇年！」合格取り消しになるかと思つた。ホント！　合格点を取るのはむずかしいデスネ！。

工大に入学し

マスターラインを動かせるまで〃

一）刀祢

昭和四十五年四月十五日、どうしたわけか。何かのまちがいからか。九州工業大学に入学してしまつた。

十五日の晴れの入学式（天気は雲ときおり雨）ではあつたが、記念講堂のまわりに、「我が部へ」入つてもらおうと、各部あの手との手と……。その中で、現在　小生が籍を置いている。自動車部は……、コンの制服（胸に九州工業大学自動車部とあり）に身をかためた。すばらしき美男がずらりと、ボロボロの車のまわりにつつたつていた。

この時はまだ小生は、自動車部には入部しようとは毛にも思つていなかつた。何かほかの運動部に入るつもりだつた。

しかし、オリエンテーションでの各科の座談会のときに、小生の考えが大きくゆらいだのである。その原動力となつたもの、あの森田（昭和四十五年現在、化学科三年）さんの、しつこいとも、熱心ともいえる、入部勧誘、一人一人あたつていくのである。あのいやらしい顔。あの日でニタアとやられて、「自動車部にはいらへんか？」……

この熱心なドラフトのおかげか、小生は、あのぼろの車ばかりある自動車部にはいろうかな、と思いかけたのである。

まあ、一応内部視察と思つて、部会に行つてみた。結局そこで入部してしまつたわけだが。

その時に知つた人の名をずらつと列挙してみよう。森田さん、川越さん、山本（正）さん、時松さん、以上、ここで感じたこと。人間というのは、第一印象だけでは、決めかねる。というのは時松さん、ばかにいい印象を与えた人の一例である。月が経るにつれて……であることがあきらかになつてきたようだ。

まあこんなことは、置いておいて、こんなわけで自動車部にはいつた。

四月二十三日から五月一日まで、二年生の方々による構造講義、二年生の方々が一生懸命教えてくれる。さすが自動車部だけはあると思つた。……（だいぶゴマをすつた。）〔みんなよく知つているるなあと感心。〕

これが終わるとさつそく運動練習、最初の指導者は中津留さんであつた。あのマスターラインの右ドアをあけ、ブレーキとクラッチなどを（この車サイドがまつたくなし）どうやつて動かすかの説明をきく、それからブレーキ板から足をはなし右足でゆつくりとアク

セルをふみ、ユックリ　クラッチペタルから左足をはなしてゆく、エンジンがうなる。ガタガタ、ガクガク、ストン、……エンストである。みなでおしがけとのくりかえしである。なんとか、動かせるまでにいたる。

しかし、三回目からの指導者は鳥飼さんだつた。口やかましいのなんのつて、ちよつとへまをやると、すぐやられる。がみがみいわれるとカタクなりまたへまをやる。そこをまたやられるというわけだ。鳥飼さんからよく注意されたことと言うと、「バックの際、最後まで後を見ておくこと。」であつた。これは常識であるが、初心者のなかなか守れないものの一つであろう。

鳥飼さんの口やかましい指導で思つたのは、「一年生に対する指導は、口やかましくなければならない」ということである。

いままで指導をしていただいた、二年・三年の中で、口やかましさの点で、鳥飼さんの右に出るものは、いないであろう。

こうやつて、ヘタながらも、あのマスターラインがまつすぐ三るようになつたのである。

（陰の声）

ホントにホントにゴクローサン

告白

再登場（二）時松

トヨペットコロナ、これがあたくしの名前で御座います。昨年の暮れ、車検の切れる十二月までしか働かないつもりで現在の御主人様に嫁いで参りました。

真赤な和服に白の腰帯、か弱いアンヨには少々こたえる重いお尻をかかえた優雅な姿は当時の工大の華で御座いました。（ただしこれは御主人様から聞いたことで御座います。）もつとも私もあの方も共に再婚のせいもありましてか、寄る年波には逆うことが出来ないで仲々わたくしのお勧めをあの方に満足していただくことが出来ず、御主人様好みになる為に並み並みならぬ苦労を重ねました。

いくら年とはいつてもわたくしにもやはり乙女の恥じらいは御座います。それなのにあの方は嫁いだその日にも早速あたくしのお尻を持ち上げて色々お調べになり、又さらにはやにわに胸を押しあけてキャフやらポイントやら、あたくしの精力を保つている敏感な部分をお触りになりました。たつたこれだけの愛撫で御座いましたのにわたくしの息切れはたちまちのうちに回復し、戸畑の媒煙が少しも気にならぬようになりました。あの方のいやらしさ、執念深さにはほとほと感激の思いで御座いました。

ところがこれで満足なさつたのかと思つたのも束の間、その翌日にはこんどは黒崎のお店まで連れて行き、持ち前の執念深さでこれ

からの新婚生活に必要な品物を値切りに値切つてお買いになり、その場でたちまちのうちに交換なさいました。それ以後もあの方のいやらしさは少しも衰えを見せず、必ず数日置きにあたくしの死ぬ思いの恥ずかしさを無視して、日夜堂々とあたくしの下に薄汚れて潜り込むので御座いました。

もちろん、これだけ深くあたくしの事を思つて下さるのですからある方との生活は充分に満ち足りた思いで御座いました。けれども車検の期限がじわじわと近ずくに従つて、あの方とあたくしの情はますます深くなる一方で、期限が切れて別れなければならないとしたらそれはそれは辛い事で、生木をさくとはまさにこの事で御座いましょう。あの方もやがてあせり始め、そしてついにあたくしを入籍することになさつたのです。その時のあたくしの気持、それはもう天にも昇る心地で、死ぬま あの方につきまとつてやろうとさえ思いました。

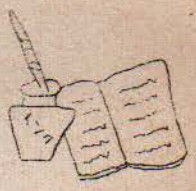
もう今ではあたくしは完全にあの方のもので御座います。稀にあたくしの助手席にある方が腰を下ろしている事がありますが、御主人様のあたくしを思う気持に少しも変りはなく、御主人様の奴隷になつて本望で御座います。

一時は後足にギプスをはめておりましたが、先日ついに徹夜で本格的に改造していただきラリーにも出場できる位にすつかり腰が軽くなりました。最近ではあたくしの妹であるマークⅡの心蔵を移植手術する計画に日夜没頭なさつており、これが出来上がればわたくしもすつかり若返り、あの方のものすごいいやらしさをも十分受け入れることが出来るようになる事で御座いましょう。

あの方も、今まで乗り継いで来た五台のうちでは一番整形手術のしがいがあるからおまえの過去はいつさい問わない、とおつしやいますし、あの方と共に過ごせるこれからと言うものはわたくしにとつてまさに桃源境で御座いましょう。この世であの方以外に男性は考えられなくなつたこの頃で御座います。

O B 名 簿

部　員　名　簿



九州工業大学責善会自動車部部則

第一章　総　則

第一条　当部は、九州工業大学責善会自動車部と称する。

第二条　当部は自動車部に関する整備、運転技術の修得及び研究をすると共に学生生活に於ける相互間の親睦をはかり且つ自動車文化の向上に貢献する一方、部の健全な発展に努力することを目的とする。

第二章　組織及び構成

第三条　当部は九州工業大学責善会体育会に属し、全日本学生自動車連盟に属する。

第四条　当部は九州工業大学生をもつて組織する。

第三章　役　員

第五条　当部は部の運営に当つて次の役員を置く。

部長	一名
顧問	一名以上
監督	一名
主将	一名
副主将	二名
会計	一名
書記	一名
全自連委員	二名以上
整備委員	一名以上
練習委員	一名以上

第六条　部長、顧問の推薦は役員が行ない主将が依頼して承諾を得る。

第七条　監督は原則として、前年度主将があたる。

第八条　主将は推薦により選出し部員総会に於て承諾を得、部長が任命する。

第九条　副主将、会計、書記、全自連委員、整備委員、練習委員は立候補又は推薦により選出し、部員総会に於て承認を得、主将が任命する。

第十条　以上の役員の任期は、一月一日より十二月三十一日迄とする。

第四章　任　務

第十一条　部長及び顧問は当部の対外的交渉の責任者として、当部の指導、監督をする。

第十二条　主将は当部の対外的交渉において部長及び顧問と連帯責任をもち且つ当部の運営の全責任をもつ。

第十三条　副主将は主将の補佐を行なう。

第十四条　会計は当部の一切の会計を担当し部活動を統率する。

第十五条　書記は当部の行事を一切記録し主将に提出しなければならない。

第十六条　全日本学生自動車連盟委員は全日本学生自動車連盟規約に準ずる。但し出張委員は主将が兼任する事を原則とする。

第十七条　整備委員及び練習委員は当部車の整備及び練習に関する責任を持ち主将を補佐し部活動を統率する。

第五章　部員

第十八条　当部の入部は年度始めとする

第十九条　当部への入部は新入部員入部規定にもとづいて行なう。

第二十条　当部員は九工大自動車部昇格規定にもとづきA・B・C・D・E・Fの六階級に分ける。

第六章　会計

第二十一条　当部の経費は責善会予算部費入部金その他の収入によりこれにあてる。

第二十二条　部入部金は次の如くする。

部費	一ヶ月	四〇〇円
入部金		二〇〇〇円

第二十三条　入部金は入部する時納入し部費は毎月前納とする。

第二十四条　年度末部員総会において会計報告しなければならない。

第二十五条　金銭の支出は主将を通して行わなければならない。

第七章　練習

第二十六条　部車にて練習を行う場合、F級はA・B級・E級はA・B・C・D級の指導のもとに練習しなければならない。

第二十七条　A級練習に際しては練習券を購入の上練習すること。

練習券は十五分五〇円とする。

第二十八条　練習する時は部員証を提出しなければならない。

第二十九条　練習券は部費滞納一ヶ月以上の者には発行しない。

第三十条　練習が終つたら洗車しなければならない。

第三十一条　E級練習は学内の交通の激しくない所で行うこと但し夜間の練習は禁止する。

第三十二条　練習中練習車が指導車の指示に従わない場合、指導者は練習を中止することができる。

第八章　運転規定

第三十三条　この章はA・B・C・D級の部車又はそれに準ずる車の運転を行う場合にあてる。

第三十四条　当部は安全運転、交通法規遵守を宣言する。

第三十五条　部車の運転に際しては始業点検を行ない走行記録をつけなければならない。

第三十六条　部車使用後は清掃して車庫に納めねばならない。

第三十七条　部車は常に標準状態で運転しなければならない。

第三十八条　部車の運転に対してC・D級の者は次の場合運転を禁止する。

1. 交通が混雑している時
2. 夜間ヘッドライトを点灯する必要がある時
3. 学外で、A級の指導のもとでない時
4. 学内に於て同乗車がいない時
5. 重荷重積載時
6. 車庫の出し入れ時で誘導する者の居ない時

第三十九条　A級の運転に対しては別に制限しない。B級の運転に対してはB級二人以上乗車の場合、前条の3に制限されない。その他の制限はない。

第四十条　部員もしくはそれに準ずる者以外の部車運転は禁止す

る。

第九章　事　故

第四十一条　運転を行なう際は事故を起さない様に注意すること。
万一事故を起したら交通法規に従つて処置すること。

第四十二条　事故により当方又は相手の車又は人あるいは器物に損害を与えた場合次の各項で処置する。

1. 部用又は公用中の事故に対しては次の様にする。

事故責任率

運転車	本人	指導者	部
A	70	0	30
B	50	20	30
C	40	30	30
D	35	35	30
E．F	35	35	30

2. 私用中の事故は、責任者の名に於てすべてを負担する。

第四十三条　事故に対して都合により修理不能の場合は、修理見積書又はそれに準ずるものを以つて主将が責任者に請求することができる。

第十章　故　障

第四十四条　部車を運転する際、故障個所があればすみやかに修理しなければならない。

第四十五条　使用中に於ける故障に対しては責任者が善処しなければならない。

第十一章　会　議

第四十六条　当部に於ける会議は次の四会議を云う。

1. 部員総会
2. A B級会議
3. A級会議
4. 役員会

第四十七条　部員総会は年度始め、終りの二回を定期部員総会と称し必ず開かなければならない。

第四十八条　A・B級会議は主将が必要と認めた時開く事が出来る。
なお、C～F級でも希望者はこの会議に参加してもよい。

第四十九条　役員会又はA・B級会議で必要と認められた時又は部員十名以上の要求があつた時主将の名に於て部員総会を開く事が出来る。

第五十条　A・B会議、役員会部員総会A級会議は過半数の出席者によつて成立する。但し過半数に満たない場合でも三分

の一以上の出席者があつて出席者全員の承認で諸会議は成立する。

第五十一条　部員総会は一週間前に中央掲示板に掲示しなければならない。A・B級会議及び役員会は原則として三日前に掲示しなければならない。但しやむ得ない時はこの限りではない。

第五十二条　部員総会で議決された事は当日より発効する。

第十二章　罰　則

第五十三条　部員に対して次の各項に該当するものは、A・B級会議の決議により主将は之を謹慎又は除名する事が出来る。

1. 本部則に著るしく違反したもの
2. 当部員たる体面を汚し統制を乱したもの
3. 部費二ヶ月以上滞納したるもの、但しこの場合は掲示により十日間の余裕をおく。
4. 部員総会又は、A・B級会議により決定された事に違反したる者

第五十四条　事故に対して謹慎処分を行なう必要があると認めた時主将は、ただちにA・B級会議を開きその処分を決定しなければならない。但し、謹慎は次の如くする。

1. A・B級の犯した重大なる事故に対しては運転者は二ヶ月以内、責任者はその四分の一以内とする。
2. C・D級の犯した重大なる事故に対しては運転者は二ヶ月以内、責任者はその半分とする。

第五十五条　五十四条の謹慎は原則として事故を起した月からとする。

第五十六条　三十四条に違反したる者は二日以内に違反金として部に一〇〇円納入する事。

第十三章　改　正　手　続

第五十七条　四十九条の手続を経て改正出来る。

第十四章　そ　の　他

第五十八条　部員は常時部員証を携帯しなければならない。

第五十九条　主将はA・B級会議にかけて、臨時A級をもうけることが出来る。

第六十条　部車を使用して私的利益行為をしてはならない。

第六十一条　部車の購入売却廃車は部員総会で決定する。

私　用　規　定

1. この規定は部員が部車であるトラックで自分の荷物を運搬する場合のみあてる。
2. 私用は全て主将の許可を必要とする。
3. 私用は次の項に該当する者のみ許可する。
   (1) 部費及び諸納金の滞納なき者
   (2) 事故による謹慎が解除されて二週間以上経過したる者
4. E・F級の私用は3に該当する　A級が運転する場合及びB級二人以上乗車しB級が運転する場合のみできる
5. C・D級の私用は3に該当する　A級が同乗する場合のみでき

る。

6. B級の私用は3に該当する。A級が同乗する場合及びB級が同乗する場合のみできる。

7. A級の私用は3に該当する。

8. 私用代の納入は3日以内とする。

昇格規定

1. 次の各項に該当したる者は主将の名に於て資格を与える。

(1) F級

入部規定にもとづいて新しく入部したる者

(2) E級

運転技術に主眼を置いて昇格試験を行ない、これに合格したる者。但し昇格試験受験は次の各項に該当する。

a 部費滞納のないもの

b F級練習を一定の回数以上行なつたもの

(3) D級

E級にして公安委員会の発行する普通免許以上の免許を取得したる者。

(4) C級

D級になつて三ヶ月以上経過し、合宿整備又はこれに準ずる整備に十日以上参加したる者で、C級試験に合格しA・B級の賛意を得たる者

(5) B級

C級で次の各項にすべて該当しかつA級会議に於て全員一致の承認があつた者。

a C級になつて三ヶ月以上経過したる者

b 運転距離五〇〇キロメーターを越えたもの

c 運転技術、整備技術が優秀とみなされるもの

d 部活動に活発なもの

e 交通事故を起して三ヶ月以上経過したるもの

f 部費及び諸納金滞納のないもの

g B級昇級試験にパスし遠征一回以上参加したる者

(6) A級

B級で次の各項にすべて該当しかつA級会議に於て全員一致の承認があつた者

a B級になつて三ヶ月以上経過したる者

b 運転技術、整備技術が優秀とみなされる者

c 部員の統率が出来る者

d 部活動に活発な者

e 交通事故を起して三ヶ月以上経過したる者

f 部費及び諸納金滞納のない者

2. F級は指導者の推薦を得て主将にE級昇格試験実施を請求できる。

3. 普通免許以上の免許を取得して入部したる者の昇格は原則として最初の昇格者に準ずるものとし、基礎講義、F級練習、E級昇格試験整備参加等を経なければならない。

これからの一年

四十六年度主将　時松

入部して早二年、未熟ながらもこれから一年間部を預ることになり気分を引き締めているこの頃である。

思うにこの二年間、自動車部に関しては悩み通しの毎日であつたと言つて過言ではあるまい。自動車部は果たして体育部に属すべきであろうか。即ノーである、少なくとも私個人では。自動車部は本来技術部として独立すべきものであつて、この立場は航空部、自然科学部にも通じる。つまり言わんとする所は、自動車の機械的技術を目指したところのメインテナンス集団その発展した形態が今日の我が部の支柱を成すのである。

もちろん、運動性を含んだラリー、フィギアその他の競技を無視せんとしているわけではない。ドライブ同好会的なものから発展した自動車部も目を全日本に転ずればあるにはあるだろう。

しかし、しかしである部員諸君、今日の我が部の現状を見る時、これらの分野での活動はあまりにも浪費的すぎはしないか。

金の余り有る私大に活動しているのではない、我々は部予算の貧弱なことでは他に比するを見ない国立大に目ざして行動せんとしているのである。

しかも部会計のうち税金、保険、ガス等、維持費にいくら注ぎ込んでいると言うのだ。到底、情熱溢れる青年の集合体である大学部として健全な内容とは言えまい

考えよう、そして行動しよう。全日に魂を奪われてはならない。部車の維持費に活動のエネルギーを吸い取られてはいけない。本来の姿に戻ろう。ナンバー車は最少限度で良い。無ナンバー車ボンコツ車こそ我が部、九州工業大学責善会自動車の本命だ。

技術部に目ざし、新しい活動の創造に情熱を傾けることこそ、金に頼らない健全なる将来を目ざす我が自動車部にとつて最も必要な事ではあるまいか。

付言しておくが、いくら運動が我が部の生命でないと言つても、今日の責善会に属する以上体育会から抜け出す訳にはいかない。無論文化部に移ることをもつてこれに換える事も出来ない。然らば、我々は堂々と体育部に居座ろう。そして手段としてではなく、一つの目的をして運動をやろう。我が部存立の為にやるのではない。個人の若々しい生活、そして個々人の将来の為に。これが我が部の sub object となり、そして main objectは無論、前述の技術部としての活動である。

以上体案は述べなかつたが、これは各自で大方予想がつこう。

いかがであろうか。名誉ある九州工業大学責善会自動車部部員諸君！

編集後記

部誌編集という大役をおおせつかり、努力したにもかかわらず、かくも杜撰なものしかできなかつたのは、小生の不徳の至す所と、反省しております。

部員が原稿を出さないのは言語道断であるが、先輩諸氏の寄稿のないのは寂しい次第です。毎回、二十冊以上も転居先不明で戻つて来ます。住所を変更された時には、自動車部まで御一報下されば幸いです。

編集委員　鳥　飼

流星第六号

昭和四十六年三月三十一日発行

発行所　流星編集委員会

印刷所　田中印刷所